

多様な世代が暮らしやすいUR賃貸住宅の実現に関する要望

我が国において、大都市部を中心に急速な少子高齢化が進んでいる中で、安倍内閣では、GDP六〇〇兆円の達成、希望出生率一・八、介護離職者ゼロという新たな目標を掲げて取り組んでいる。

この目標達成のためには、高齢者世帯、若年世帯、子育て世帯の住まいの確保、良好な居住環境の提供など、多様な世代が安心して暮らせる環境を作っていくことが必要不可欠であり、UR賃貸住宅の果たすべき役割はますます重要となっている。今後のインフレリスク等に的確に対応し、URがその役割を持続的に果たしていくため、空き家の解消や財務戦略等による経営改善に努めるべきである。

以上を踏まえ、必要な予算の確保を含め、次に取り組むよう要望する。

- 一 高齢者世帯や子育て世帯が快適に安心して住めるよう、バリアフリー化などUR団地の居住環境の改善等を推進すること
- 一 UR団地のコミュニティの維持・活性化に向けて、次に積極的に取り組むこと。
  - ・ 空き家の多いUR団地については、空き家解消に一層取り組むとともに、若年世帯、子育て世帯向けの入居促進を図るなど、空き家をコミュニティの維持・活性化に活用すること
- ・ UR団地居住者の高齢化が進んでいる状況を踏まえ、民間企業等とのパートナーシップによる若者向けの住戸の供給、大学との連携による学生や留学生の居住支援などによる若年世代の入居の促進を図ること
- 一 子育て世帯や高齢者世帯を家族で支え合う近居割について思い切った減額幅の拡充を行うこと
- 一 URの家賃改定ルールの見直しに当たっては、低所得の高齢者等が安心して住み続けられるよう十分に配慮するとともに、家賃改定による増収分を含む家賃収入は、居住環境の改善など賃貸住宅事業に優先的に充当すること。また、家賃設定に際しては、空き家が多い、エレベーターがないといった個別の特殊事情を十分に勘案すること

平成二十七年十二月十四日

自由民主党公団住宅居住者を守る議員連盟 会長 平沢勝栄

(衆議院議員)

秋元司、井上信治、伊藤達也、大塚高司、大塚拓、大西英男、大見正、小倉將信、小此木八郎、越智隆雄、鬼木誠、門山宏哲、神山佐市、鶴下一郎、北村誠吾、木原誠二、古賀篤、小林鷹之、今野智博、櫻田義孝、佐田玄一郎、左藤章、下村博文、菅義偉、菅原一秀、平将明、田中和徳、田中良生、土屋正忠、とかしきなおみ、豊田真由子、中根一幸、西村康稔、萩生田光一、葉梨泰弘、平口洋、星野剛士、松島みどり、松本純、松本洋平、村井英樹、山口泰明、渡辺博道

(参議院議員)

末松信介、中川雅治